

皆さんの「学士力」に自信をもって

学長 竹葉 剛

卒業生のみなさん、卒業おめでとう。皆さんが、本学で、講義や演習、実験や実習、そして卒業（修士）論文の作成に向けてがんばったことは、人間の基本的な能力として、皆さんの中に残っています。また、大学生活の4年間、あるいは修士課程の2年間、クラブ活動、アルバイト、就活など、皆さんが真剣に取り組んだことも、皆さんの中に貴重な体験として残っています。自信をもって、社会での新しい課題に挑戦してください。そして、多くの経験を積んで、周りから信頼される社会人となってください。



最近の論調には、「大学全入」時代を迎えて学力試験を経ないで入学する大学生が4割にも達し、さらに大学が安易に卒業させるので、日本の大学生は、国際的に見て水準が相当に低下している、というものがあり、文部科学省や中央教育審議会なども「学士力」を強化すべし、という考え方を表明しています。しかし、京都府立大学を卒業する皆さんは、そのような論調を気にする必要はありません。それは、本学で充実した大学生活を送った皆さん自身が一番よく知っていることだと思います。

ただし、皆さんがこれから社会人として活躍する場である現在の社会は、非常に厳しい状況にあります。日本だけでなく世界中の経済活動が停滞し、いわば恐慌状態に陥っていますので、皆さんの当面する大きな目標は、その社会の中で自分の仕事の場を確保することになるかと思います。働きがいがあり、しかも一定の収入が確保できる職場を見出すことは容易ではありません。本学で身につけた「学士力」を土台にして、自分自身をさらに鍛えて、社会人としての「仕事力」「人間力」を身につけてください。

幸いなことに、皆さんには、皆さんの活躍を応援してくれる人がたくさんいます。まず家族の方々があります。多くの友人があります。先輩や後輩も皆さんを応援しています。そして、府立大学の教職員も皆さんを応援しています。これだけ多くの人々が応援してくれる環境のある大学は他にあまりないと思います。

最後に、健康には特に気をつけてください。バランスのとれた食事と生活のリズムが大切です。十分な睡眠は、記憶を整理し、免疫力を回復し、心身の活力の源です。毎日決まった時間に就眠しぐっすり眠ることが、生活のリズムを保つために必要です。そして、もししんどくなったら、いつでも府立大学を訪ねて来てください。

目次

卒業生に贈ることば（学長）……………	1	後援会理事長、同窓会長からのメッセージ…………	15
法人理事長・理事、部局長から……………	2	西安交換教員・派遣院生からのメッセージ…………	16
担任・卒業生のことば		桜楓講座の参加者募集……………	16
文学部・文学研究科……………	4	博士学位取得者からのメッセージ……………	17
福祉社会学部・福祉社会学研究科……………	7	ニューフェース……………	17
人間環境学部・人間環境学研究科……………	8	戦略的・大学連携支援事業について……………	18
農学部・農学研究科……………	11	博士学位取得者一覧、トピックス……………	20
退職教員からのメッセージ……………	14		

法人理事長・理事から

卒業される皆さんへ

京都府公立大学法人理事長 荒巻 禎一

本日、晴れてこの時を迎えられました皆様方、ご卒業おめでとうございます。

顧みれば、一人一人が夢や希望を描いて、この京都府立大学の門をくぐられてからずいぶん早く時間が過ぎたと思われているのではないのでしょうか。この日を待ちわびたという方もあるのでしょうか。

風光明媚な下鴨キャンパスでの学びの日々は、これから、時間を経るに従って懐かしくすばらしい思い出として青春の貴重な一頁を飾ることでしょう。

府立大学として親しまれ、110余年の歴史と伝統を持つ京都府立大学は、これからの益々の発展と一層魅力ある大学づくりを目指し、京都府立医科大学とともに、平成20年4月に、公立大学法人が運営する大学として新たにスタートしたところですが、皆さん方はその初めての卒業生となります。

府立大学のこの大きな節目の時期に学び、卒業したことを、貴重な思い出として、母校がどのように変わっていくのかにも関心を持ち、温かい目で見守っていただければと思います。

大学の発展のためには、その中におられる教職員や学生、また大学法人が如何に努力をしていくかが問われるところですが、加えて、これまでに卒業された同窓生の方々の励ましとご支援が大きな力になります。

今日からその一員となられる皆さん方には、大学への変わらぬ愛着と様々な形でのご支援をお願いするとともに、これからの人生が幸多きことを念願して、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

人として、人とともに、人の中に生きる

京都府公立大学法人理事 築山 崇
(公共政策学部教授)

卒業の日を迎えられたみなさんにとって、これまで歩んできた時間の中に、様々な出来事、出会いがあったことと思います。子どもから大人への移りゆきの過程で、大きな感動を覚えた体験、少し心が痛む苦しい思い出、苦しい中で希望を見出した記憶などが、今の皆さんの人となりをかたちづけていることと思います。

4月から始まる新しい世界での生活は、働くこと、社会的な活動に参加することによって、生涯にわた

る学びと成長の舞台となりますが、仕事、子育て、介護、暮らしに関わる地域・社会での活動など、現代に生きる私たちを取り巻いているのは、まず、“多忙”という環境かもしれません。でも、そんなとき、本当に大切なことは何なのかふと考えをめぐらせる、そんな“瞬間”があれば人生の景色はまた違って見えてくるはずですよ。

いま、人間や社会に対する不信や不安を増幅する要素が、世界と日本の現実にあふれています。でも、そんな時だからこそ、大学で触れた学問の世界を糧に、何よりも自分自身・そして人間存在への深い信頼を礎に、2009年春、確かな一歩を踏み出されることを願っています。人として、人とともに、人の中に生きる…そんなキーワードはいかがでしょう。



部局長から

あふれる情報から真実を

教務部長 高原 光

卒業生の皆さん卒業おめでとうございます。学部あるいは大学院で、皆さんは、教養科目や専門分野における学問を修め、さらにこれからの財産でもある友人も得て、ますます成長され、社会人として、旅立たれることをたいへん嬉しく思います。現代は、急速な進歩をしている情報技術によって、瞬時に世界中に多量の情報が流れる社会になっています。情報を得ることは必要なことですが、さらに大切なことは、あふれる情報から真実をみいだすことだと思います。皆さんが、大学で学問を修めた意味は、様々な専門技術を身につけただけではなく、広い学問分野に渡って学ぶことによって、様々な事象について客観的な判断をするための論理的思考力を磨かれたことでもあると思います。あふれる情報に振り回されることなく、自分で考え、確かな情報に基づいて、常に先を見る目を持ってください。でも、一歩休んで、心の栄養を補給することも忘れずに！ 皆さんが元気に活躍されることを祈っております。

笑顔を忘れないで

学生部長 木戸 康博

ご卒業おめでとうございます。京都府立大学での学生生活はいかがでしたか。四季折々に笑顔で受入れてくれたものがこのキャンパスにあったのではないのでしょうか。

笑顔の効果は絶大であると思います。わたしは、出かける前に、鏡に向かって「笑顔を忘れるな！」と心に問いかけています。赤ちゃんの満面の微笑みを想像するだけで心が癒されます。笑顔を見せる人は、見せない人よりも、経営、販売、教育など様々な分野で効果をあげることができると思います。笑顔のなかには豊富な情報がつまっています。子どもたちを励ますほうが、罰を与えるよりも教育の方法として優れています。たとえ、その笑顔が目に見えなくても、効果には変わりがありません。電話でも笑顔で会話すると、笑顔は声によって相手に伝わります。

笑顔は、つかれたものにとっては休養、失意のひとにとっては光明、悲しむものにとっては太陽、悩めるものにとっては自然の解毒剤となります。買うことも、強要することも、借りることも、盗むこともできません。無償で与えてはじめて価値が出るものです。与えても減らず、与えられたものは豊かになります。

新しい人生の旅立ちに乾杯！ 笑顔を忘れないで！

人は古りゆくよろしかるべし

附属図書館長 山崎 福之

卒業生、修了生の皆さん、おめでとうございます。それぞれの学位を取得された皆さんに、萬葉集から次の歌を贈りたいと思います。

○物皆は改まる良しただしくも人は古（ふ）り
ゆくよろしかるべし（巻10・1885）

この歌は物事の新しい価値を認めつつ、「ただしくも（そうは言っても）」とことわりを入れて、人が「古る（年経る）」ことを「よろしかるべし」と歌っています。もちろん皆さんはまだまだ「年経る」と言われる年齢ではありませんが、府立大学に入学以来の年月で、数々の価値ある知識や教養、技術や資格を身につけられたに違いありません。しかし真に大切なのは、そうした目に見える、実感できる事柄ではなく、それらを身につける過程において培われた人間としての成長そのものであるはずです。それこそが「よろしかるべし」と讃えられるべきもの

なのです。

皆さんがこれからも多くの経験を積み重ね、それを糧にして、ますます「よろしき」人になられることを願ってやみません。

危機をチャンスにの心意気で御活躍を

事務局長 森本 幸治

御卒業おめでとうございます。人生には進学や結婚など数多くの転機がありますが、今振り返ると、社会に飛び出した大学卒業が最大の転機だったように思います。

就職すると、自由時間が少ない、年代が違ういろいろな人との対話が必要、社会的責任が重くなるなど、学生時代とは環境が大きく異なってきます。

希望した職業ではあっても、日々の仕事は与えられ、期限を守り、成果が求められます。当然、ストレスも溜まります。

でもやり遂げたとき、回りから認められたとき、大きな自信になりますし、喜びでもあります。仕事を通じて新しい人間関係や絆もできてきます。

皆さんが活躍をする社会は、未曾有の経済危機にあるといわれています。しかし、危機をチャンスにの心意気で、自信を持って力強く立ち向かってください。必ずや道は切り開かれると確信しています。

キャンパスで見る皆さんの笑顔が大好きでした。アレ！最近笑顔が少ないな、と思ったら、府大に足を向けてください。きっと学生時代の笑顔が蘇ってきます。

皆さんの御活躍と御多幸をお祈りします。



文学部・文学研究科

新たな一步を踏み出される皆さんへ

文学部長・文学研究科長 上田 純一

卒業・修了おめでとうございます。

四月から皆さんは新たな一步を踏み出されます。新たな環境は、必ずしも思い通りのものではないかもしれませんが、不安や挫折を味わうこともあるでしょう。それでも、決して諦めないでほしいのです。挑戦しつづけてください。

皆さんへの期待、応援の意を込めて、私の好きな言葉を餞として贈ります。

貴方より優れた人間はいないし、貴方より利口な人間もいない。もし、貴方の上を行く人がいたら、それは単に、貴方より早くスタートを切った、というだけのことだ。

コクチュウよ、永遠に

文学科国文学・中国文学専攻担任 青木 博史

コクチュウ専攻の皆さん、卒業おめでとう。

今年度から文学部は改組され、文学科国文学・中国文学専攻は、新しく日本・中国文学科として再出発しました。ニッチュウなんて何だか変、コクチュウのほうが良かった、なんて声も時々聞きますが、コクチュウというのも十分変わった愛称です。私も赴任当初は、「国中文」という文字面と「コクチュウ」の呼び名に随分戸惑ったものでした。

それでもコクチュウ専攻の卒業生は、あと2期を残すのみです。「変革」が「発展」となることを、ともに祈りましょう。ただ、名称は変わっても、変わらないものがここにはあります。ここで出会った仲間を、ここで培った思い出を、いつまでも大切にしてください。コクチュウの愛称とともに。

「心の底から、ありがとう」

文学科国文学・中国文学専攻 K.T

「なぜ文学を学ぶのか？それは文学が心の表現を豊かにするからだ。」オープンキャンパスで訪れた当時の文学部長がこう話されました。その言葉で、文学を志すことを決めました。あれから5年が経ち、憧れた京都府立大学を卒業すると思うと淋しくてたまりません。今、大学生活を振り返ると、宝物のように大切な人たちの顔や風景があふれてきます。文学、そして言葉に情熱

をもつ先生方。4年間を共に歩み、かけがえのない存在になった友。四季に沿って表情を変える並木道。木々の間に、いつまでも変わらないままの校舎。それらに囲まれて素敵な時間を過ごせたこと、心の表現だけでなく人生を豊かにしてくれたことに、「ありがとう」と言いたいです。



知識にもとづく責任ある社会人に

文学科西洋文学専攻担任 青地 伯水

皆さんは四月から一個人として社会に出られたり、大学院に進まれたりしますが、当然、今までよりも重い責任がついて回ることになります。クンデラの小説『存在の耐えられない軽さ』の主人公トマーシュは、ギリシア悲劇のテーバイ王オイディプスを例にとり、責任とは何かを明らかにしています。オイディプスは、知らないうちに運命にあやつられ、父を殺し、母と交わってしまいます。町に広がる疫病の原因が自分の悪業であることを知った彼は、自ら視力を失い、玉座をあとにすることで責任をとります。皆さんも社会に出れば「知りませんでした」は通用しません。多くのことを積極的に学んで、責任ある社会人となってください。

「大学で得たモノ」

文学科西洋文学専攻 O.A

大学生活では、変わり者かもしれませんが、レポートを執筆することに喜びを覚えました。それは興味を持ったことについて学習できる楽しさ、またそれを継続することの難しさを学ぶ機会となりました。何度も自分の考察を反芻し、効果的な表現を組み立てる行程は、まるでパズルに取り組んでいるかのようで、さらに先生方と議論することもまた楽しみでありました。

こうして学んだ、自らの意見を持ち、それを言葉にすることは、これからの生活においても確かな基礎として私を支えてくれることと思います。

最後になりましたが、4年間の大学生生活を支えてくださった先生方、そして共に歩んでくれた友人たちに心からの感謝を捧げたいと思います。

「三いろの言葉」

史学科担任 渡邊 伸

史学科の皆さん、ご卒業おめでとうございます。新しい門出にあたって、お話をひとつ。グリム兄弟による『家庭と子供のための昔話』、いわゆる童話集に「三いろの言葉」という話があります。スイスのある殿様の息子が、みたび外国の先生のところにおくられ、それぞれ犬のワンワン鳴く言葉、鳥のさえずる言葉、それに蛙の鳴く言葉を習いおぼえて帰ってくる。父親は「おまえのなかったことはそれだけか」と怒り、息子を役たらずと追い出してしまふ。しかし、旅に出た息子は、犬と鳥と蛙の助言で人びとの苦難を救い、ついにはローマ法王にまでなった。申し上げたいことはご賢察の通り。皆さんが大学で学び経験したことはすぐに役に立つことはないかもしれません。しかし、長く、大きなことに役に立ってくれることを祈念してやみません。ご活躍を期待しております。どうぞお元気で。

卒業にあたって

史学科 H.J

学生生活最後の4年間、当初の予定よりも多くの事を体験し、変化に富んだ毎日を送ることができました。一度喋り出すとなかなか止まらない史学科の仲間達とは、コンパ、学科旅行や食堂でのおしゃべりなど、忘れられない思い出がたくさんできました。また、クラブでは、夕練やリーグ戦、合宿など、それまで体育系クラブに属したことのなかった私にとって、辛いことも楽しいこともひっくるめて、とても刺激的でした。このような日々を過ごせたのも、史学科の友人や先生方、クラブの同期、先輩、後輩など、多くの人と出会い、支えてもらったおかげです。これからの人生も、人との出会い、つながりを大切にしながら楽しんでいきたいと思ひます。

はじめての担任を終えて

国際文化学科担任 母利 司朗

前任校から移ってきてはじめて受け持った担任の役がとりあえず終わろうとしています。皆さんの目に、私たち国際文化学科の教員ははたしてどのように映っていたのでしょうか。お父さんやお母さん、あるいはお兄さんやお姉さんにはもちろんなりきれませんが、何かの

役にはたったでしょうか。それともただただ胡散臭いだけの存在だったでしょうか。私は、大学の教員になって今年で23年になります。年を重ねる度に、毎年毎年後悔することが増えてきます。ああ、もっと皆さんと話していればよかった、もっとしっかり名前を覚えて、授業でこうしゃべって、こうしていればよかった云々…。後悔もまた教員の特権ですね。



「府大での最大の収穫物」

国際文化学科 T.N

暖かい日差しが日に日に増してきましたが、府大生の皆さん、新生活に向けて忙しい日々をお過ごしでしょうか。大学生生活を振りかえてみると、私は府大の多くの仲間にも助けられて大学生生活を送ってきました。仲間の大切さを実感したのは、就職活動及び卒業論文制作です。卒業論文にいたっては学科の仲間がいなければ提出は出来なかったのではと思えるほどでした。同じ目標に向かって共に頑張る仲間を持つことが、自分を突き動かす原動力となる。ありきたりなようですが、このアットホームな府大でなければこのような友人関係を築くことはできなかったと思ひます。多くの仲間にも心から感謝しています。ありがとう。

おめでとうございます

文学研究科国文学中国文学専攻担任 林 香奈

「之を知るを之を知ると為し、知らざるを知らずと為す、是れ知るなり」(『論語』為政篇)。一見、単純なことのように見えるこの行為が、実際はいかに難しいことであるかを、大学院で痛感されたことと思ひます。

知っているつもりのも、時がたち経験を積むことで、本当はわかっていなかったと気づく日も来るでしょう。知らないことばかりで、戸惑うこともあるでしょう。ただ、わずかでもさしあたり知り得たことをもとに、責任をもって自らの意見を述べていくことも、また孔子の教えだと思ひられます。

「知る」とは何かを考えた府立大学での経験を活かしつつ、今後さまざまな場面で活躍されることをお祈りしています。

学生生活内で得たもの

文学研究科国文学中国文学専攻 M.N

芥川龍之介『羅生門』の凄まじさが分かったのは、大学へ入学して暫く経ってからでした。高校でも、学習するにはしたのですが、「大原女」や「烏帽子」等の単語理解に先ず気が逸れ、作品自体の考察にまで力が及ばなかったのです。それが、大学二回生くらいの頃だと思えます。何気なく其れを再び手にし、再び読むと、作品に充ちる緊迫が新たに肌で感ぜられ、覚えず身震いしたのです。

斯様な鑑賞力・考察力、更には想像力が身に付いたのは、大学で、著名な教授陣の傍で、文学と言うものの片鱗を、学んできた過程があったからこそであります。また、其れを理解し得たとは到底言えませんが、今は、ここで得た物を次へと活かすべく、日々精進して参りたいと思っています。

外野席から

文学研究科英語英米文学専攻担任 佐々木 昇二

修了おめでとう。どう言う訳か、いろんな面でつき合いの密度は必ずしも濃くは無かった学年になりましたが、二年間のしんどい修行期間を無事くぐり抜けられたことに、学年担任として心から敬意を表します。

とはいえ、修士論文の中間発表会や、2号館の階段ですれ違った時など、入学当初のどことなく不安げだった様子と比べて、ずいぶん逞しくなったな、という思いを心密かに抱いていたことも確かです。他の先生方の場合もきっと同じでしょうが、やはり表情なり足取りが違ってきていることがはっきりと感じ取れるのです。

後期課程に進学する人を除けば、これからは場外からの観戦ということになりますが、身につけてくれた逞しさを力に皆さんがそれぞれの場で活躍され、歓声が徐々に沸きあがるのが聞こえてくる瞬間を心待ちにしています。

一度も海外行かなかった反省文

文学研究科英語英米文学専攻 S.H

気づいたらもう6年も大学に在籍したのであるが、その6年間に何をしていたか、と問われると、実際大したことは何もしていないのである。まず、旅行に行っていない。多くの学友は皆、フランス・ドイツ・フィンランドなどと充実した海外旅行ライフを送っていて、そりゃそうだ、今しかできないんだもの。私にだって時間はあったのだ、6年も。しかしなんでもろくに旅行に行っていないだろう、と振り返ると、これが案外、旅をした気がするのである。

多くの本を読んだ。書物から目をあげると、少し世界が移行している気がした。米文学の授業で出てきた Journeyという言葉の原義が、ずっと心に残っている。「jour (一日)の行程」。思えば、長い旅をしたのかもしれない。

仕合せ

文学研究科史学専攻担任 渡辺 信一郎

学位修得おめでとうございます。アメリカの金融危機に発するこの二年間の世界経済の急激な変化は、たとえようがないものでした。直接的な原因は、アメリカの新自由主義的資本主義にあります。その問題点とアメリカ一国時代の終わりについては、ノーム・チョムスキーなどアメリカの良心的な学者たちが10年近く前から指摘していました。根柢的な問題は、自動車・家電を先端産業とする20世紀型資本主義の質的転換にあるという人もいます。本質的な時代の変化とそれに対する調整の期間は、数十年はかかるでしょう。その全体像がわかるのは、さらにその後になると思います。君たちは、またとない歴史的な時期に遭遇し、その経過と結果を体験することができるのです。仕合せなことです。この歴史的な動きをどう評価するか、それをもとに社会を支えて生きていけるかどうか、この六年間で学んだ歴史学の真価が問われるでしょう。

「修了にあたって」

文学研究科史学専攻 H.T

まだまだ時間はあるぞと思っていた。けれど修士の2年間、そして府立大に入学してからの6年間は本当にあっという間だった。修了に際して、為すべきことを多く積み残しているような気がしている。

思い起こせば、私はあまり良い学生ではなかった。先生方、先輩方には多くのご迷惑をおかけしたように思う。かけた迷惑の分だけ自分が成長できているのか、あまり実感もないままだ。院に進学したことを悩んだ時期もあった。

それでもこうしてやってこられたのは、周りにいる人の支えがあったから。院に進学したからこそ出会えた人たちがいる。

素敵な「出会い」を与えてくれた京都府立大学に感謝したい。



Thank you for being here

文学研究科国際文化専攻担任 川分 圭子

長谷川君、張さん、劉さん、任さん、ご卒業おめでとう。皆さん4人は、日本、中国、台湾という三つの文化を超えて仲良く勉学に励み続け、この良き日を迎えられました。この二年間いろいろつらいことがあったと思います。日常生活だけでなく、4人それぞれがめざした修士論文のテーマも、異なる時代や地域の文化を理解することだったからです。異文化の理解には途方もない粘り強さが必要です。相手はこちらを理解しないのに、ひたすらこちらから歩み寄り、相手の論理・言語を冷静に読み解く粘り強さが。しかし、皆さんは笑顔でこれに耐えてこられました。皆さんがこうして獲得した粘り強さに誇りを持ってください。これは、耐えた人だけの財産なのです。心よりご多幸をお祈りしています。

居残りの感慨

文学研究科国際文化専攻 H.Y

「いつから居るの?」といわれて、数えたところ八年前からだった。なぜそのようなことになったのかはあえて問わないで欲しいのだが、ちょっとした年月である。エレベータの設置を求めて府議会上に請願に行ったこと(当時の井口和起学長にはご迷惑をかけた)、あるいは日韓ワールドカップ大会で友人が日本・ロシア戦の観戦に行った(みんなうらやましがっていた)ことを思い出す。また、予想もしなかった九一一のテロ(課題の締切り前日でそれどころでなかったが)や試験期間の変更(九月→七月)もあったが、最大の想定外は学科の廃止決定であった。しかし、一切は過去である。続く人々のよき日々を祈って、居残りは卒業したいと思う。

福祉社会学部・福祉社会学研究科

「福祉社会」を求めて!

公共政策学部長・公共政策学研究科長 小沢 修司
(福祉社会学部長・福祉社会学研究科長)

学部、大学院博士前期課程を卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。私の肩書きには「公共政策」が付いていますが、皆さんの卒業する学部や研究科は「福祉社会」です。おそらく、入学から現在に至るまで「福祉社会って何?」という問いかけを続けてこられたことでしょう。その答えは得られましたか? 私の思いはこうです。皆さんは広い視野で多面的な問題関心を持ち社会のこと人間のことを考えてこられました。卒論や修論で、切り口とした学問分野はそれぞれ一つであったかもしれませんが、物事を狭く捉えはしませんでした。多様な個性の共生、そしてみんなの幸せと自分の幸せに思いを馳せたのではないのでしょうか。多様性と共生、福祉と発達。「福祉社会」づくりは続きます。

経験を成長の糧に

福祉社会学科担任 森下 正修

皆さん、卒業おめでとうございます。

福祉社会学部での学生生活はいかがでしたか。思い返せば、この間たくさんの困難と喜びを経験されてきたことでしょう。皆さん自身にはまだあまり実感がないかもしれませんが、それらは確実に皆さんを成長させています。

多くの方はこれから「新人」として社会に出ていけることとなります。うまくやっていけるか不安な方もいるでしょう。確かに、「新人」はプロかアマかと問われれば、プロです。ただし「他の人より少しだけ失敗が許されるプロ」です。初めに犯すであろう幾つかの失敗の経験も、きっと皆さんを成長させる糧になることでしょう。

たくさん経験をさせて立派になられた皆さんと再会できる日を、楽しみにしています。

4年間の学生生活

福祉社会学科 F.H

この大学で過ごした4年間は、今まで経験したことがないくらい濃密なものでした。アメフト部のマネージャーと継続したアルバイトなどで、気付くとよくスケジュール帳がいっぱいになっていました。ずっと誰かと一緒に何かを考えながら、一生懸命走って来たように思います。

そんな学生生活での財産は、たくさんの人と出会い、様々な人間関係を築けたこと、真っ直ぐに自分と向き合えたことです。これから社会に出ていくにあたり、自分をしっかりと持つための大切な礎を得られたと感じています。

最後に、私たちの大学生活を支えて下さった多くの方々、見守って下さった先生方、同じ時間を過ごすことができた仲間たちへ。4年間本当にありがとうございました。



福祉社会学部で学んだ4年間

福祉社会学科 Y.H

私が4年間学んだ福祉社会学部では、1回生からゼミに参加します。発表準備から発表、議論という一連の流れには様々な力が必要です。1回生の頃私たちが行っていたのは、発表や議論と呼べるかも疑わしいものでした。しかし、4年間のゼミを通じて、そうした能力が少しずつ身についたと思います。

他にも、ゼミからは様々なものを得ました。例えば、ゼミを通して友人や先生方と深い交流ができました。ゼミ生一同で先生のご自宅にお邪魔し、おいしい手料理をご馳走になったことも良い思い出です。

私は、4月から引き続き府立大の大学院で学びます。大学院では、学部生時代に得たものに磨きをかけ、社会に貢献できる人材となれるよう努めていきたいと思っています。

これからも、これからこそ

福祉社会学研究科博士前期課程担任 山野 尚美

修了生の皆さん、おめでとうございます。これまでの努力に心から敬意を表します。そして、それを支えてこられたご家族や指導にあたられた先生方にもお祝い申し上げます。

「もっと時間があつたら、あれも、これもできるのに……」と後ろ髪を引かれる思いの方もおいでかもしれません。確かに修了は、ひとつの区切りです。しかし、大学を離れるとしても、それで学びの全てが終わるわけではあり

ません。大学の外の世界においてこそ学べることも多くあります。

修了がお別れになるのではなく、大学との新たな関係の始まりになることを期待しています。そして、もっともっと学びたいと思われるようになった時には、ぜひ本学に戻ってきていただきたいと思います。



うれしいはずなのに

福祉社会学研究科 MH

昨日、修士論文を提出して、うれしいはずなのに、なんだか淋しい。この2年間取り組んだ福祉社会学は、私には新しい学問分野だったので、ずいぶん苦勞して、その苦勞が報いられようとしているのに……。1年目、私が還暦を迎えた日、研究室で同学の仲間にお祝いしてもらったり、時には何年ぶりのコンパをしたりと、苦勞だけではなかった日々が終わることへの淋しさなのだろうか。

学生時代は京都で過ごしたのに、府立大近辺は縁がなくて、今になってやっと植物園や賀茂川のありがたさがわかった思いがしています。資料館やコンサートホールが近いのも魅力でした。こんな抜群の環境で学べた日々が終わろうとしているのは、やはりなんだか淋しい。

人間環境学部・人間環境科学研究科

「人生は誰にとってもすばらしい」

生命環境学部長・生命環境科学研究科長 久保 康之
(人間環境学部長・人間環境科学研究科長)
(農学部長・農学研究科長)

宮本 輝の「にぎやかな天地」という小説があります。この小説は発酵食品が物語の展開の柱になっています。そして京都の北山を舞台として話が始まります。北山で学生生活を送ったみなさんなら主人公のアパートはあのあたりか、すし屋はあのあたりかなどときっとその記憶を蘇らせてくれるでしょう。さて、この作品のモチーフになっている「発酵」は自然にいる微生物のなせる業、そこに人が介在し、関わることですばらしい食品ができあがるというもの。いわば偶然の必然化をやっ

ている。偶然を必然とならしめること。偶然を必然と内在化する力。様々な出来事に出合う人間の運命やら宿命をどう捉えるのか。重いテーマですが、それを温かく描いています。人生は誰にとってもすばらしいはずだと。卒業して新たな人生のスタートを切られる皆さんへのエールとしてこの言葉を送りたいと思います。

食と健康の実践者として

食保健学科担任 東 あかね

美山町演習林での新入生合宿研修に始まり、朝食会、2回生での小学生を対象にした食育、3回生での給食実習、保健所実習、府立医大病院での臨地実習、そして5つの研究室に分かれての卒論研究まで、食保健学科の

教員が一丸となって、皆さんの教育に当たってきました。この4年間にはクラブ活動やアルバイトにも励み、また、一生の友人を得られたことと思います。いよいよ巣立ちの時を迎えましたね。大学で学んだ知識を実生活や仕事において活かし、口先と頭だけでない食と健康のプロとしての40年、生活者としての70年を健康に、仕合わせに生き抜いて下さい。皆さんとの出会いに感謝しつつ、はなむけの言葉とします。

今の自分にできること

食保健学科 H.N

私の4年間の大学生活の中で一番印象に残っているのはクラブです。テニスを通してたくさんの方を学びましたが、一番学んだことは「今、自分には何ができるのか」を常に考えることです。私は大学で硬式テニスを始めたので、技術面ではなかなかチームの力になることができませんでした。しかし、テニスの技術では力が及ばなくても、誰よりも大きな声を出す、素早く行動する、といったことでチームの雰囲気をよくすることならできるということに気づき、この2点では誰にも負けないつもりで練習や試合に取り組んできました。できないことを考えて落ち込むよりできることを考えて行動する、ということをお忘れずにこれからも頑張りたいと思います。



目標をもって生きよう!

環境デザイン学科住環境学専攻担任 山川 肇

卒業おめでとうございます。みなさんはこの4年間で自分の目標を見つけられましたか?

これから社会に出て行けば自由になる時間は多くはありません。しかし、一つ一つの仕事、生活の中にもあなたの選択があります。しかたなくするのも一つの選択ですが、それを自分で主体的に選び直し、その中に自分の目標とのつながりを見つけるのもあなたの選択です。そしてその2つの選択は大きな違いを生み出すことと思います。

これから人生の次のステージに一步を踏み出そうとしている今、少しの間、自分と向き合い、どういう自分でありたいのか確認してみてください。そして目標を持って生きてください。

みなさんのこれからの活躍を期待しています。

大学での変化

環境デザイン学科住環境学専攻 K.S

大学入学前の自分と今の自分を考えてみました。仲間、精神力、専門知識など様々なことが変わり形づくられました。その中で特に強調したいのが研究室で学んだことです。メンバーは男ばかりで華やかさは無かったですが、面白さがありました。卒論提出前に泊まって頑張った日々、研究の合間にバイクで出かけた紅葉見学、更には忙しかった流木祭でのすき焼き丼。この内容から遊びばかりと感じられたと思いますが、研究もしっかりしていました。4回生は3回生と違い、与えられる教育ではありません。研究室では自ら学ぶ姿勢がとても大切であると感じました。知識だけで収まらない生きていく上で大切なことを学びました。本当に府立大で良かったです。

これからを考える

環境デザイン学科生活デザイン専攻担任 下村 孝

ルイ・アラゴンの詩「ストラスブール大学の歌」には、第二次世界大戦の戦火に巻き込まれた学生と教員が描かれています。その中の「教えるとはともに真実を語ること、学ぶとは誠実を胸にきざむこと」というフレーズに学生時代の私は大いに感激した記憶があります。

4年間、概ね平和な時代の大学で、皆さんは人の生活を豊かにするための知識と技術を学び、今、旅立ちます。皆さんが誠実を胸に刻んで身につけてきたことが、これからの人生と世の中にかに活きるのか、改めて、思いを至らせる時間を作ってみてください。教員である私も、皆さんに語ってきた真実が何なのかを改めて問う機会とします。

皆さんの卒業と新しいスタートに祝福を贈ります。

大学生生活をふりかえって

環境デザイン学科生活デザイン専攻 Y.M

思い返せば4年前、入試のデッサンで失敗をしてしまい半ば入学をあきらめていた私が府立大に入れたのは、きっと何か縁があったからだと思います。大学生活では、学科やサークル、研究室の仲間に恵まれ、一緒に笑ったり、はしゃいだり、時には睡魔と戦いながら楽しく充実した日々を過ごしました。

また地域の魅力を発信するという卒業研究を通して、職人さんをはじめたくさんの方々と出会いました。戸惑いや不安もありましたが、周りの人達の支えもあって楽しんで制作に取り組むことができました。

府立大に入学していなければ、きっとこんな経験は

できなかったと思うと、そのめぐり合わせに感謝せずにはいられません。4年間本当にありがとうございました。

卒業されるみなさんへ

環境情報学科担任 リントゥルオト 正美

卒業おめでとうございます。皆さんの卒業論文発表の雄姿にこの4年間の大きな成長を見、とてもうれしく思いました。堂々とした発表や質疑応答に答える姿は4年前の合宿研修の自己紹介からは想像できないものでした。きっとやり遂げた充実感を感じていることと思います。

立派な成果を誇りに社会に旅立ってください。ぜひ、4年間で得た友人を大切に、時々会って語ってください。この時期に得られた友人以上の友人はこれから得ることは難しいと思います。一生の宝物です、大切にしてくださいね。また、京都府立大学のことも忘れないで、人生の節目には報告に来てください。皆さんの更なる成長した姿にお目にかかれることを楽しみにしております。

大学生活での感謝の気持ち

環境情報学科 K.A

入学した当時は4回生の先輩がとても大人に見えて、自分も三年たったらあんな風になれると思っていました。今私は4回生を終えようとしていますが、あの頃の先輩方と比べてまだまだ子どもだと思ってしまう。でも、サークルや研究室で先輩方や先生方にお世話になりながら楽しい毎日を過ごし、少しずつ成長できました。そして一緒に笑ってくれるたくさんの友達や先輩、先生、後輩に出会えました。辛いこともありました。そんな時には周りの人が一緒になって泣いたり怒ったりしてくれてうれしかったです。私は本当に人に恵まれた幸せな大学生活を送ることができました。私に関わってくれた全ての人に感謝しています。ありがとうございました。

Go ahead!

人間環境科学研究科食環境科学専攻担任 佐藤 健司

大学院博士前期課程を修了される皆様、この2年間の研究成果を入念に準備された発表をされ、論文としてとりまとめられたのは大変な努力と忍耐が必要であったと思います。しかし、このように長期の時間を一つのテーマにかけることができるのは、当たり前のごとではなく、得ることのできない大変貴重な経験であると思います。今後、いろいろな場面で成果を求められることが

あると思いますが、大学院の時のように時間と周囲の支援がある場合ばかりではありません。しかし、大学院の2年間に研究に没頭し、また力を出し切った経験が今後逆境の中でもがんばれるかの力になると思います。良い旅を!



多くの人に支えられた6年間

人間環境科学研究科食環境科学専攻 NY

入学して6年。私にとって学部時代に所属していた硬式テニス部での3年間は、最も印象深い思い出です。手術した足の調子や先輩との関係に苦しんだ時期もありましたが、いつでも支え合い、共に乗り越えていける仲間を得ることができました。この先もずっと大切にしたい、かけがえない存在です。また、研究室に入ってから先生方をはじめ素敵な仲間に出会い、充実した日々を過ごすことができました。友達、先輩・後輩、先生方…多くの方に支えていただき、ここまで来れたことを心から感謝します。そして、何より6年間勉学に励むことができたのは家族のおかげです。本当にありがとう。社会に出ても感謝の気持ちを忘れず、頑張りたいと思います。

生活者の視点に立った研究の成果を活かす

人間環境科学研究科生活環境科学専攻主任 下村 孝

大学院2年間で生活者の視点に立った修士研究に取り組んできた皆さん、ご苦労様でした。そして、学位取得、おめでとうございます。先人が積み上げてきた知見の上に、あらたな知見を積み上げる仕事を成し遂げたということに自信と誇りをもって欲しいと思います。そして、その中で築き上げてきた知識、思考と技術の力にも確信を持ってください。

人生の価値を測る尺度が大きくはき違えられてきた世の中が、今、大きな混乱に陥り、その価値観の転換を迫られています。この時代、そして、その先の人生を、皆さんが修士研究に取り組む中で身につけてきた正しい尺度と判断力で人間らしく生き抜いてくれることを期待します。

修了にあたって

人間環境科学研究科生活環境科学専攻 HS

学部の3年生までは、知識を蓄積し、また自ら探求し、表現することを学びました。その後の4年生から博士前期課程で取り組んだ卒業・修士研究は、この6年間で、特に強く印象に残っています。自分の関心ある分野でテーマを考え、方法を学び結果を得るために頭だけでなく手足を動かして調査や実験に取り組みました。その過程はたやすい道のりではありませんでしたが、様々な方々に助けられて乗り越えることができました。最終的な決定や行動は自らが行いますが、研究は出会った方々の助言や手助けなどに支えられています。4月に進学する博士後期課程でも、研究室の仲間と相互協同、切磋琢磨して、研究を続けていくつもりです。

環境情報学専攻、最後の皆さんへ

人間環境科学研究科環境情報学専攻主任 春山 洋一

環境情報学専攻修了おめでとうございます。環境情報学科が1997年に発足し、学年進行で大学院ができましたので、大学院の1期生は2001年入学でした。昨年4月の改組で、大学院については学部より一足先に、第7期生の皆さんが本専攻最後の修了生になりました。

農学部・農学研究科

予餞会と謝恩会

附属演習林長 湊 和也

某国立大に勤める友人から、「卒業予定の学生に“謝恩会”の名目で会費を求められた」という怒りとも嘆きともつかない話を聞いた。謝恩会の是非はさておき、謝恩会と呼ぶ以上、会費を求められて黙然としない彼の気持ちは理解できる。予餞会というものもあるが、こちらは卒業前に行なう餞(はなむけ)の宴であるから、あとに残る人達が会費を出し合うのは当然である。もっとも、卒業生から切出す話ではないが。ちなみに、謝恩会に出席する教員は“寸志”を包むのが通例だが、『寸志をありがとうございました』などとお礼を言われると、嫌みではないだろうかと勘ぐりたくなる。社会に出る前に、「謝恩会」や「寸志」の意味ぐらいは知っておいて欲しい。ご活躍を祈ります。

私が着任した25年前から、学科を立ち上げ、大学院を作ることが至上命題としてありましたので、ここで一つの区切りが付くことに感慨もひとしおです。

本専攻は、本学では唯一の理工系専攻として、優秀で熱意のある教員による濃密な研究教育体制によって、少人数ではありましたが有為の人材を輩出してきました。皆さんがこの2年間の大学院生活で得た知識と経験を糧に広く活躍されることを期待しています。

十三面待ちの学生生活

人間環境科学研究科環境情報学専攻 YM

大学に入ってやりたかったことって何ですか??

その答えを探するために(ちゃんと活動もしたけど)ただ×2飲んで騒ぐだけのサークルに入った気がします。その可能性を見つけるために研究室を選んだ気がします。その余韻に浸りたいがために大学院に入った気がします。そこで出会った人達とともに自分自身、墮落しつつも成長することができました。そこで得た出会いは人生の中でかけがいのないものとなると確信しています。大学生活の中で知り合えた先生方や仲間には言葉には言い尽くせない想いがあります。最後に絞り出した言葉でこの短い大学生活を終えたいと思います。ありがとうございました。



体をうごかして覚えよう

附属農場長 平井 正志

農場での実習は体をうごかすことである。昔はどこの家でも家の手伝いと称して、様々な作業をさせられた。家の掃除、にわとりの世話、大工仕事、草花や野菜の栽培。農家でなくても、多くの家で仕事が山ほどあった。その仕事をどのようにやるか。力をどう配分して要領よく終わるか。どうしたら、失敗せずにやれるか。これ

は繰り返し働いて体で覚えてきた。本を読んでも、インターネットを見てもこれだけはなんともならない。ところが近年その仕事が少なくなった。当然若い頃にそれを体験していない。学生が圃場で鍬を振るう姿を見れば、体験の不足は一目瞭然である。本来ならば高校までで体験すべきことを大学の農場でやっているのかもしれないが、今では貴重な体験であろう。仕事にはそれをやり終えた時の喜びがある。農場の実習にはそれに加えて収穫の喜びもある。これも得難い体験である。

世界大不況の中、皆さんの活躍に期待

生物生産科学科担任 宮崎 猛

生物生産科学科の皆さん、卒業おめでとうございます。今日の経済社会は、百年に一度の世界大不況の真直中、この時期に社会に出てゆく皆さんには多くの試練があるかと思えます。その時には、学生生活で培った皆さんの知識と能力、卒業論文で発揮した集中力、友人や先輩・後輩等の人間関係、様々な経験…などを思い出して、その上で将来の夢を持ち、一步一步前進してほしいと思います。今日はまた、農業や農村が大きく見直されています。大学で学んだ皆さんの専門知識や技術、人との繋がりや活かされる機会も増えることと思えます。皆さんの活躍をお祈り致しております。



卒業にあたって

生物生産科学科 NK

早いもので府大に入ってからもう4年も経とうとしています。今春卒業するに至り、勉学面ではもっといろいろな授業に出て様々なことを学んでおけばよかったと思うことがあります。勉学以外の学生生活でもやり足りないことはありますが、部活などでは充実していたように思います。この学生生活で支えとなってくれた友人や先輩、後輩、先生方には大変お世話になりました。これから社会に出て失敗したり、くじけることも出てくるかもしれませんが、学生生活で得たものを活かせるように頑張っていきたいと思えます。あと少しですが、学生生活を有効に楽しく過ごしたいと思えます。

饒の言葉

森林科学科担任 松村 和樹

卒業、おめでとうございます。これから、社会に出る人や大学院に進学する人など、進路は異なることになりましたが、それぞれ自分の将来に期待と不安が錯綜していることと思います。しかし、府大で学び、遊び、卒業論文を苦勞して作り上げ、しっかり発表をこなしたあなた方には社会に通じる十分な能力が育まれているはずで、そのことを信じて次のステップに雄飛して行って下さい。最後に、うちの院生などは耳タコと言っている言葉を送ります。社会では決して一人で最後までできる仕事はありません。人との関わりが大事で、心がけるのは「性格・やる気・体力」です。

「大学生生活を過ごして」

森林科学科 NM

本学に編入学して三年がたちました。多くの人に支えられ無事に大学生生活を過ごすことが出来ました。10人いたら10通りの考え方があると言いますが、その個性の違いに触れ多くのことを学びました。そして先生方との団欒は誕生日会など楽しい息抜きのものであり、また厳しい指導の場でもありました。

先生と学生の距離が近い本学で学び、振り返ればかけがえのない時間を過ごさせていただいたと感じています。これから進む道は様々ですが、京都府立大学の名前に恥じないよう大学生生活で得たことを社会に還元していくつもりです。先生方、友達、仲間、心から感謝しています。本当にありがとうございました。

行不由径

生物資源化学科担任 山田 秀和

卒業、おめでとう。

「行不由径」は、「論語」の言葉で、「行くに徑(こみち)に由らず」と読む。物事を行うに際して、大通りを進み裏道や小道を進まないこと、あるいは公明正大に行動することを言う。小生が、大学卒業の頃、辞書編纂を畢生の仕事とした著名な漢語学者の隨筆で知り、いたく感銘した言葉である。隨筆には、「行不由径」を引用して、学問を志すとき、直ぐに成果の出る安直な課題や方法(小徑、こみち)を選ぶなどの厳しい戒めが込められていた。爾来、この言葉を「座右の銘」の一つとしている。

卒業生諸君に、「座右の銘」の一つとして薦める。

ありがとう

生物資源化学科 A.K

今思えば、あっという間だった4年間。恩師・先輩・そして友達などの数々の出会いに恵まれていたと感じる。とても楽しかった大学生活。4年間で得た事はとても大きく、さまざまな経験・出会いを経て今の私がいる。これからは、自分の意思で自分の道を歩む。悩むこと、迷うこともあると思う。しかし、これからの自分を信じ、道は違えど共に頑張る仲間を励みに、自分らしく生きていけそうである。

これまで関わってきたすべての人々に感謝の気持ちをこめて。

On Top と Laid Back

農学研究科生物生産環境学専攻担任 石井 孝昭

「曲がスイングする」とJAZZ音楽ではしばしば言われます。スイング (Swing) とは、ドラムやベースが奏でるリズム、主に「On top」(前ノリ)と「Medium」(中位)を入れ替えながらも、いずれかを保って奏でるリズムに、「Laid back」(後ノリ)というリズムを絡めて、独特の拍子を創り出すことです。このリズムの流れは活気を生みだし、刺激的でもあります。昨今の経済が低迷する中で、早急な対策を求めて「On top」になりがちな社会においてこそ、私たちは「Laid back」という「のんびりする、くつろぐ」をうまく絡めることで、面白い/Jazzed-upな人生を送ることができるでしょう。ご活躍を楽しみにしています。

2年間を振り返って

農学研究科生物生産環境学専攻 H.K

大学院で府大へ入学し、違った専門分野に挑戦し、また一から勉強する生活からスタートしました。「院生なんだから」とほったらかしにされることもなく、最初から丁寧に実験手法について教えていただきました。ただ教えられるだけでなく、発表の場があり、議論の場があり、いつも何かの問題に直面していたからこそ、ここに来た頃の自分と比べてずいぶん成長できたと思います。また、問題の解決には、自分一人の努力以上に、周りの人達の助けが必要であることが分かりました。やり残したことも多く、全て円満に卒業というわけにはいきませんが、心残りを解消することが、次のステージで努力するための原動力になると思います。



熟慮断行

農学研究科生物機能学専攻担任 大越 誠

修了おめでとうございます。就職、進学などそれぞれの道に進まれることと思います。これまで、大学や大学院で学んだり経験したりしたいろいろなことを活かし、人との繋がりを大事にして、活躍されることを祈ります。

昨年後半、アメリカから始まった景気後退が世界に波及し、我が国も大波を被ることとなり、企業業績の悪化、雇用問題など取り巻く状況は益々厳しくなっています。これからこの大波に立ち向かっていかなければなりません。皆さんは京都府立大学という優秀な大学を修了されたのですから、自信を持って、そして何を、どのようにしたらよいかをよく考え、方針が決まったら集中して行動する気構えで頑張ってください。

大学生活で得たもの

農学研究科生物機能学専攻 T.E

大学に入学してからの6年間はあっという間でした。正直、学部生時代はバイトやサークル活動に追われる毎日でした。しかしその中でも、多くの方々を知り合うことができ、様々な経験ができたことは意味のあるものだったと感じています。

また、大学院に進学してからの2年間では、とにかくたくさんの機会を与えて頂きました。その中で自分が生かされたと感じているものはごく少数ですが、そういった機会を生かそうと必死に努力したことから非常にたくさんのごことを学ぶことができたと感じています。

自分がこの6年間でどのくらい成長できたのかはわかりませんが、恵まれた人間関係の中で様々な経験ができたことが一番の財産であると感じています。

退職教員からのメッセージ

体育館の思い出

文学部日本・中国文学科 青木 博史

この10年間に、本学の教職員の中で最も多く体育館を利用したのは私ではないか。もちろん何の自慢にもならないが（むしろ、仕事しろという非難の声が聞こえてきそうであるが）、かけがえない時間をすごしてきた。

まずはボクシング部。2004年に国中文専攻の男子をたきつけ、私13人で、トレーニング室の隅っこで周囲の白い目を浴びながらスタートした。そこから、生徒が通っていた美容室の美容師、その美容室に通っていた元プロボクサーが加わり、文学部の他の学科の学生、空手部の部員、他大学の格闘好きの学生、果てには守衛さんまで巻き込んで次第にその輪は広がった。練習は火・木の週2回、練習場所も卓球場に移り、いつの間にか立派な同好会となった。そして今や、体育会にも参加して「部」となり、全学部から集まった部員は約20名。練習風景は本学HPの「tidbit」のコーナーをご覧いただきたいが、楽しく厳しくそれなりに本格的にやっている。何より愛すべきヤツらの集まりだった。

もう一つは、教職員バレーボール部。赴任後すぐに若いという理由だけで（当時は28歳）誘っていただいたのが縁で、まったくの素人ながらも参加させていただいた。活動は10月の職員ふれあいフェスタ、11月の学長杯がメインなので、ほぼこの2、3ヶ月間に集中しているのだが、この4年間は元中国の省代表選手・孫氏の指導の下、それなりに上手くなった（と思う）ので、ここで辞めるのもこれまた残念である。「くろ川」や「花いちもんめ」で、毎年「来年こそはもっと練習しよう」と誓い合う打ち上げも楽しかった。

こんなに素晴らしい仲間と、こんなに楽しい時間を過ごすことはもう二度とないだろう。もはや与えられた紙幅も尽きたが、思いは尽きない。



退職にあたって

文学部歴史学科 水本 邦彦

このたび、本来の定年より一年早く退職することになりました。

昭和56年（1981）4月の赴任から28年、これまでの人生の半分近くを府大で過ごしたことになります。経ってしまえば、「あっ」という間の短い年月でした。

とはいえ、四手井学長から辞令を頂いて以来、学長職では門脇、広原、井口、そして竹葉学長の5代を数えます。文学部長でいえば、門脇部長に始まり上田部長まで14代。なんと徳川15代にも匹敵する代数です。この間、卒論を指導した学生数は百数十人、著書は5冊まとめることができました。ほかにも、史学科日本史教員で取り組んだ「京街道」の著作や「随心院」の科研報告、地域学術調査研究センターの報告書など、私にとって有意義な仕事がたくさん思い出されます。近年、文学部主催で企画したいくつかのシンポジウム作りも楽しいものでした。また、木津町、精華町、城陽市などの自治体史編纂事業では、山城地域の豊かな歴史をいろいろと発見することができました。

学生部長、文学部長という要職を経験したことも、大変意味のあることでした。学生部長時代には、教職員と学生からなる大学組織の仕組みや運営について勉強し、文学部長時代には学部改組を進める中で、文学部の学問の面白さを再認識しました。

「あっ」という間ではありましたが、振り返ってみれば充実した28年だったと思います。

今後とも京都府立大学が永遠・不滅でありますよう、祈念いたします。



定年退職の挨拶

生命環境科学研究科環境科学専攻 水野 弘之

1985年に本学に赴任以後20数年間、教員・職員の皆様には、教育・研究・管理運営の面でお世話になり、楽しく充実した日々を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

2002年以降は諸般の事情により、公私に亘って皆様に多大なご迷惑をおかけしましたこととお詫びしますと共に、その間も暖かく見守っていただき様々なご支援を

賜りましたことに心から感謝し厚く御礼申し上げます。

また、この間、優秀かつ熱意あふれる学生の皆さんと共に研究できたこと、教育を通じて多くの学生の皆さんと交流する中で、学生の皆さんから多くのことを学ぶことができましたことに感謝致します。

なお、在職中には、全国各地の住民の皆様、とりわけ京都府民の皆様へのニーズに応えるべく、京都府立大学の教員としての立場を自覚して、防災・住居改善・福祉のまちづくり・住民と行政職員が連携した地域づくりな

どに関する研究を進めてまいりましたが、その中で、京都府庁・府内の市町村および全国各地の役所に勤務されている職員の皆様、各地の住民の皆様、学外の様々な分野の専門家の皆様には、多大なご指導・ご支援をいただきましたことに感謝致します。

厳しい時代を迎えていますが、それを克服し、皆様には希望にあふれた時代を迎えることができますように祈念して退職のご挨拶と致します。

長年の間、学生の教育や研究などの発展にご尽力いただき、本当にありがとうございました。

後援会長・同窓会長からのメッセージ



卒業生へ贈る言葉

後援会理事長 萬里小路 伸一郎

皆さんより遅れますが、私も後援会を卒業します。娘の入学直後から後援会に関わらせて頂き、歴代の理事長はじめ多くの会員の方々、皆さんが有意義な学生生活を送れるよう活動してまいりました。私自身はどこまでお役に立てたのか、心もとない気がしていますが、その間、皆さんはこの愛すべき京都府立大学の校風の中で先生方の愛情に守られ、かけがえのない学生時代を送られたと確信します。皆さんのゲノムに京都府立大学のDNAが組み込まれたようなもので、それがどう発現するか期待が膨らみます。

激動の昨今、過去の経験だけでは対処できない世の中で、年長者としての訓示めいた言葉は避けませんが、皆さんが京都府立大学の卒業生であることの自信と誇りを持って、前向きに生きていく意欲さえあれば、それが日本の未来を切り開いていくことは間違いありません。どうかご自愛ください。ご卒業おめでとうございます。



苦難の道を乗り越えて

同窓会長 浦上 弘幸

卒業生・修了生の皆さん、おめでとうございます。いま、世界はアメリカに端を発した金融危機で、百年に一度といわれるような不況に見舞われています。報道によりますと、日本のトップ企業であっても非正規雇用者だけでなく正規雇用者までも解雇せざるを得ない状況にあるようです。このような時期にあって、就職できた方は大変喜ばしいことです。しかし、行き先の決まっておられない方も決して諦めることなく勇猛果敢に挑戦し、可能な限り夢と希望を叶えられる仕事に就かれることを願っています。京都府立大学同窓会もまだまだ弱体で、就職や進学相談にのるところまでは至っておりませんが、将来的には同窓会員を基軸とした相談組織や求人コーナー等を設置し、今回のような社会状況の激変にも対応できるようにしたいと計画中です。このような夢を実現するには、現在よりも濃密な交流とともに、多様な人材を確保しなければなりません。実現は先になるかもしれませんが、いまから助走を始めていきたいと思えます。卒業・修了された機会にぜひ入会していただき、将来は自分達の同窓会としてこれまでにないものを創り出し、同窓生に対してあらゆるサポートができる組織・体制づくりができることを期待しております。このような組織・体制を創出し、運営するにはかなりの苦難があると思えますが、皆さんと共に手を携えてこの苦難の道を乗り越えて行きたいと考えております。ぜひ、絶大なご協力とご支援をお願い致します。

最後になりましたが、卒業生・修了生の益々のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

西安交換教員・派遣院生からのメッセージ

交流への道

文学部日本・中国文学科 南 海



2008年4月に西安外国語大学の交換教員として、京都府立大学に参りました。1980年代に京都府立大学との交流が始まってから既に二十何年間もの歳月が経ち、その間、学長訪問を初めとして、交換教員や派遣院生など多形式にわたる豊富な交流がなされてきました。先輩の先生方や同僚たちから府立大での教員生活の話をよく耳にしていたので、自分もいつかは府立大での教員生活が体験できたらと思っていました。

去年の4月にやっと宿願がかない、四季おりおりの変化が見られる京都にやってきました。府立大は思ったより規模が小さく、私の日々出入りする二号館の建物も40年前に建てられたものではありませんが、それを取り巻く緑いっぱいの環境や先生方の研究室や教室などがかなり整備されているのに驚嘆と感心の念が止みません。更に深く感じたのは中国語を勉強している学生の人数が多いこと、その中に真剣に中国語学習に取り組む学生が多数いることです。中国語学習の動機などを学生に尋ねると、「中国が近いから、いつかは一度行ってみたい、そのために勉強が必要。」とか「これだけ日本と中国とは経済的なつながりが深いから、将来の仕事にも中国語が必要かも」とか、実に親密な中日関係を物語る回答が返ってきました。

かなり前から学生の短期留学を募集したらどうかと小松先生に言われていたのですが、前期が終わる直前に慌しく募集したところ、4名となりました。人数が前年度と比べ、一桁違いながらも、中に何と前回に引き続き二回目の西安短期留学に行こうとする学生が一人いるのにびっくりしました。その人に「二年間連続して短期留学に行こうとする理由を教えてください」と聞いたら、「中国語の講義で覚えた買い物の時の値引き交渉を中国語でもう一度楽しみたい、また噂では西安外院の近くに唐の時代の城壁遺跡公園が完成したそうで、是非行ってみたいです。」といういかにも中国に関心を寄せているような答えでした。わずか二週間の短期留学ですが、中国語講義や、西安観光、自由行動などの短期留学生活を通して中国に対する理解がより深まったに違いありません。ちなみに後期が始まってから間もなく、前述した例の学生が中国語の講義で「我想做…」(「私は……をしたい」という構文で短文作りの際、「現在我还想去西安留学。」(今でもまだ西安へ留学に行きたい)という文を作ってくれたのには感心の二字に尽きる思いです。

今後西安外大と府立大との交流は一層進んでいくものと固く信じ、そのために微力を尽くしたいと思っています。最後に、一年間の教員生活を送らせてくださった京都府立大学の皆様に心からお礼を申し上げます。

教師として、日本人として

西安外国語大学派遣院生 梶原 愛加

早いもので西安に派遣されて約半年が経ちました。生活にはずいぶん慣れてきましたが、授業は相変わらず緊張の連続です。私は1年生と2年生の会話の授業を担当しているのですが、どの生徒も皆驚くほど勉強熱心で、教科書にぎっしりとメモを取る学生がほとんどです。そういった生徒達の日本語に対する真っ直ぐな姿勢を目の当たりにすると、自分が担っている責任の大きさを感ぜずにはいられません。生徒達にとって私は「学生」ではなく「先生」であり、「初めて接する日本人」でもあるのです。教師として、また日本人として何が出来るのか、未だ模索中ではありますが、生徒達のパワーや中国人の先生方の優しさに助けられながらも充実した毎日を送っています(…ただ一つ不満があるとすれば、西安に来てからというもの私は一度も初見で「日本人」に見られたことがないということです。あの、私教師の前にまず「日本人」として西安に来てますから、そこんとこ宜しく…)。

桜楓講座(春の部)の参加者募集

最近のトピックを交えながら、本学教員がそれぞれの専門分野について分かりやすく解説します。春の部は公共政策学部と生命環境科学研究科から2講座で開催。受講希望の方は、e-mail、FAX、ハガキいずれかで参加コース・お名前・御住所をお知らせください。詳しくはホームページでもご覧いただけます。

(企画室：電話 075-703-5147 FAX075-703-5149
e-mail:kikaku@kpu.ac.jp)

どなたでも参加できる公開講座です

Aコース 5/22(金) 18:15~19:45

「世界不況をどうみるか」

講師：公共政策学部教授 大島 和夫

Bコース 6/5(金) 18:15~19:45

「住まいとセカンドライフ」

講師：生命環境科学研究科教授 檜谷美恵子

※詳しくは大学までお問い合わせください。

博士学位取得者からのメッセージ

到達と出発

文学研究科史学専攻 MK

昨年九月に博士号（歴史学）を取得した直後、私の頭の中は、やっとここまで辿り着いたという到達感でいっぱいでした。

それから約半年、博士論文作成中に考えたことなどを整理する中で気がついたのは、論文の作成とは、これからの研究活動のたたき台を作る作業だったということです。

論文作成当初に設定した課題のうち、答えを出すことができたのはほんの一部で、解決できずに積み残した問題のなんと多いことか。私にとっての博士論文の意味は、研究の完成などではなく、たとえ僅かであっても、自分なりの答えとその出し方とに対して一定の客観的評価を求めた点にあったと思います。そしてその評価を得ることが、研究者としての出発点に立つことなのではないでしょうか。

最後に、長い間辛抱強く指導して下さいました先生方に改めてお礼申し上げます。

博士課程の貴重な日々

人間環境科学研究科食環境科学専攻 TM

私は、京都府立大学には博士前期課程から入学しました。博士前期課程を修了後、一度は就職しましたが、博士後期課程に進学しようと考え、辞職しました。

在職中、そしてその後の研究生活は、悪戦苦闘の連続でした。論文完成の展望が持てなくなった時、指導してく

ださる先生の想いを感じ幾度となく気持ちを奮い立たせました。

研究室単位での活動は、京都北山という良い環境のもと、素敵な仲間にも恵まれ、かけがえのない時間を過ごすことができました。

京都府立大学での数年間に学んだことは、研究の範囲を超える内容でした。身体的な成長は成人後にはほぼ終了しますが、経験を伴った能力を司る脳の一部分は成長を続けるということを実感できたように思います。充実した日々心より感謝いたします。

今後もこれまでの研究をもとに、さらに発展させられるよう努力いたします。

難忘的日本学習和生活

農学研究科生物生産環境学専攻 Y.D

日本での3年間の留学生活はあっという間に終わりました。京都府立大学での3年間で、私の研究を熱心に支えて下さいました先生方の指導もあって、先進的な技術、専門的な知識を多く身につけることができました。また、日本の学者の熱心な研究態度と諦めない精神に感動しました。この3年間の留学生活で多くの日本人の友人を得、全く異なる文化に触れることができました。日本で体験したことを中国の人々に伝え広めたいと思っています。また、日本で得た経験と学んだ知識は将来の仕事や生活に役立つでしょう。留学生である私を学生の一員として受け入れていただき大変感謝しています。お世話になった先生方、親切な日本の友達、素敵な京都そして美味しい料理を一生忘れません。

ニューフェース

平成20年10月着任の教員の紹介

公共政策学部 公共政策学科

教授 青山 公三 (あおやま こうぞう)



<主な研究領域>都市及び地域環境政策、市民参加論、地域社会論、危機管理政策など

元々名古屋のシンクタンク職員でしたが、92年～07年の15年間、米国のシンクタンクに勤め、ニューヨークを拠点として活動していました。米国滞在中、全米約40都市以上を訪問し、都市活性化や環境、経済、危機管理に関わる公共政策について調査・研究してきました。京都府立大学ではこうした経験を生かし、日米の比較研究を進めつつ、京都府をはじめ、日本の国及び地方の公共政策に対し、何らかの貢献をしていきたいと考えています。

生命環境科学研究科環境科学専攻

教授 檜谷 美恵子 (ひのきだに みえこ)



<主な研究領域>住居学、住生活ならびに居住政策研究

私たちの生活基盤である住まいに対する要求を、生活者、女性、高齢者等の視点から検討するとともに、住生活と福祉や就労、都市計画等との接点を念頭に、より良い住環境を実現するための方法、良好な住まい、住環境を適切に維持管理し、将来世代に継承していくために求められる住宅制度、地域居住政策のあり方を探っています。府立大学では、京都というフィールドで求められる住生活の安定や向上に向けての課題に取り組みたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

戦略的大学連携支援事業について

平成20年度から開始された「戦略的大学連携支援事業」は、地域の大学等間の積極的な連携を推進し、各大学における教育研究資源を有効活用することにより、地域の知の拠点として、教育研究水準のさらなる高度化、個性・特色の明確化、大学運営基盤の強化等を図るための文部科学省の事業です。

事業開始初年度である今年、当事業には全国から計94件の取組が申請され、審査の結果54件の事業が選定されましたが、本学から連携校として申請した2件の取組が、いずれもその採択事業として選定されました。

1つは、地域や社会に一層の貢献を果たしていくことを目指し、かねてより包括協定を締結して、教養教育、専門教育、研究等の連携に取り組んできた、京都工芸繊維大学、京都府立医科大学、京都府立大学の3大学に京都薬科大学を加えた4大学による「京都発国公私立大学ヘルスサイエンス系共同大学院の創設と総合的連携による大学力強化」をテーマとする事業で、総合的連携型の区分で選定されました。

もう1つは、龍谷大学、京都府立大学、京都橘大学、同志社大学、佛教大学とが連携して取り組む「地域公共人材のための京都府内における教育研修プログラムと地域資格認定制度の開発」をテーマとする事業で、教育研究高度化型の区分で選定されました。

ここでは、総合的連携型の区分で採択された4大学によるプログラムを紹介します。

■「京都発国公私立大学ヘルスサイエンス系共同大学院の創設と総合的連携による大学力強化」

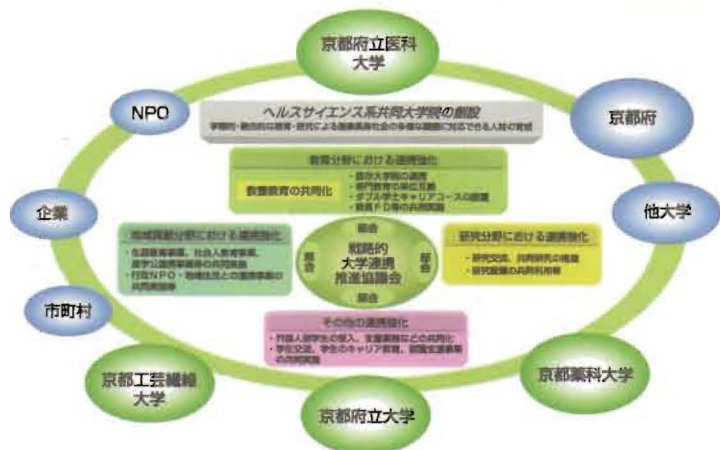
この事業では、府立医科大学を中心としてヘルスサイエンス系共同大学院の創設を検討する共同大学院部会、連携大学による共同研究等の推進を検討する研究等部会、教養教育の共同化を推進する教養教育部会、既存の大学院教育の更なる連携を検討する専門教育部会の4つの部会を設け、各々の部会において、関連フォーラムの開催や新たな制度検討など各種の取り組みが進められています。

今年度、本学高原光教養教育センター長が部会長を務める教養教育部会と本学松村和樹CIOが座長を務めるネットワーク検討会議では、教養教育共同化等の基礎づくりとして、

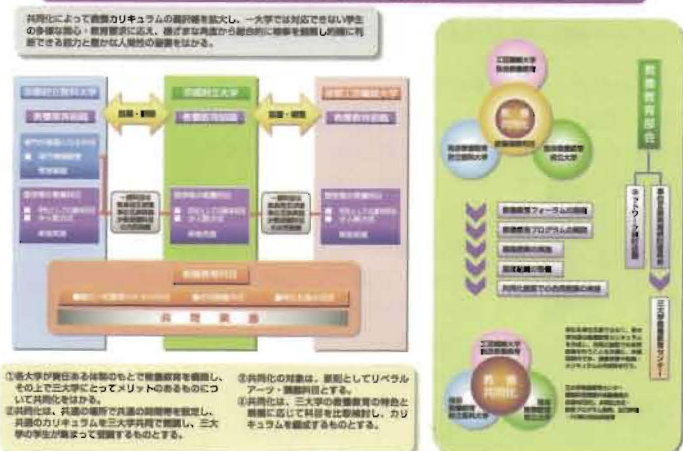
- ① 合同授業の実施に向けた単位互換の更なる取り組み
- ② 教養教育フォーラムの開催
- ③ 遠隔合同授業システム等の基盤となる連携大学学生共用ネットワークの整備

等の実施に取り組んできており、教養教育の共同化の拠点となる府立大学においては、将来のe-learningの実施や遠隔合同授業の実現のために、連携校間の共用情報ネットワークの新規構築なども進められています。

【取組事業の全体概要イメージ】



教養教育の共同化



大学教育改革プログラム合同フォーラム (H21/1/12 於バンシィコ横浜) ポスターセッション 出展ポスターより

今年度に開催された事業関連フォーラム等の様子



第1回大学院連携セミナー「ケミカルバイオロジーシンポジウム」(H20/12/15)は、本学大学会館において開催されました。

会場には府立大学を始め多くの大学の教員・学生(約100名)が参集し、また、企業からの参加者もあり、高い関心が寄せられました。各講師による貴重な最新情報が発表され(10件)、その後のディスカッションは、休憩時間、懇親会でも引き続き質疑応答、意見交換がなされるなど、活発に行われました。初めての取組でしたが、研究組織・大学間

の壁を越えた大学院連携のネットワーク形成が大きく前進したと思います。

また、当日32件のポスター発表も行われ、優秀者には竹葉学長から表彰状が授与されました。(世話人:生命環境科学研究科権教授・倉持准教授)



第2回大学院連携セミナー「植物オルガネラ研究の新展開」(H21/3/14)は、植物葉緑体の液胞など細胞の中にある小器官(オルガネラ)研究の新しい姿を様々な角度から紹介し、それらのポテンシャルや課題を総合的に討論するものとなりました。本学大学会館において開催され、韓国におけるオルガネラ研究の第一人者 Jeong Dong Bahk 先生の講義をはじめ、7大学の教員14名による長時間、濃厚な研究発表、若手によるポスターセッションが行われ、参加した大学院生達も熱心に聴き入っていました。

(世話人:生命環境科学研究科権名教授・小保方教授)

第1回教養教育フォーラム(H21/3/7)



約90名の関係教員が府立大学第3講義室に集まり、教養教育の在り方に関して熱心な議論が行われました。本学渡辺信一郎教授の経過報告に続き、元滋賀県立大学学長日高敏隆先生を始め、株式会社松風牧野人事部長、京都八幡病院赤坂院長など外部講師も加わって、パネルディスカッションが行われました。人間形成の基礎となる教養教育の在り方について、大学、社会からの様々な意見を踏まえ、改めて考え直す機会となりました。

第1回共同大学院フォーラム(H21/3/8)

府立医科大学図書館ホールにおいて、元京都大学総長井村裕夫先生による基調講演「新たな時代を迎えたヘルスサイエンス」を皮切りに、健康長寿社会の未来を拓くヘルスサイエンス分野での共同大学院の創設に向けて、本学木戸康博教授など4大学のパネラーから報告がありました。また、企業パネラーからは共同大学院への期待を含め報告があり、各パネラー、フロアーを交えた熱心な討議が繰り広げられました。



このほか、H21/3/17には、京都工芸繊維大学ホールにおいて、「ヘルスサイエンスの総合化」をテーマに、第4回3大学連携研究フォーラムが開催されました。本学からは、延べ11点のポスター出展をはじめ、小保方教授による研究発表も行われ、各連携大学に関連する企業も加わり、積極的な研究交流が行われました。

来年度も引き続き、教養教育や専門(大学院)教育、研究等の分野での連携を一層進めていくとともに、地域貢献や学生・クラブ活動の交流など様々な分野での連携強化に向けて検討を進め、密接な大学間連携による個々の大学力と地域社会における存立基盤を戦略的に強化し、他大学とのさらなる連携拡大も視野に入れながら「大学のまち・京都」全体の活性化、地域貢献の一層の推進を目指します。

新たな大学連携による京都府立大学の今後ますますの発展に御期待ください。

学位取得者一覧

■課程博士

【文学研究科 国文学中国文学専攻】

- ・ 景井 詳雅（『万葉集』利用の実態——中古から中世まで——）
- ・ 松本 朋子（不定語の歴史的研究）

【文学研究科 史学専攻】

- ・ 目黒 杏子（漢代国家祭祀の研究——郊祀の構造を中心に——）
- ・ 水谷 友紀（近世奈良町社会構造の研究）

【人間環境科学研究科 食環境科学専攻】

- ・ 田中 理子（主要栄養素の選択的摂取調節に関する研究）

【人間環境科学研究科 環境情報学専攻】

- ・ 江波 和彦（Analysis of plasma membrane SNAREs involved in the tip-growth of the cells in *Arabidopsis thaliana*（シロイヌナズナにおける細胞の先端成長にかかわる細胞膜 SNARE分子の解析））

【農学研究科 生物生産環境学専攻】

- ・ 落合 彩織（Studies on the development and production of bio-ethylene using dead grape leaf（ブドウ枯葉によるバイオエチレンの生産と開発に関する研究））
- ・ 高原 晃宙（Studies on Sediment Control and Measurement in Sediment Transport System（流砂系における土砂の制御および計測に関する研究））
- ・ 余 東（Elucidation of Plant-Derived Active Compounds Involving both Arbuscular Mycorrhizal Symbiosis and the Growth of Several Kinds of Beneficial and Pathogenic Soil Microorganisms（アーバスキュラー菌根共生並びに数種類の有益および病原土壌微生物の生長に関する植物由来の活性物質の解明））

【農学研究科 生物機能学専攻】

- ・ 中嶋 聖充（Fundamental studies on plastic working of bamboo（竹の塑性加工に関する基礎的研究））
- ・ 齊藤 雄飛（Biogenesis of type I protein body in rice endosperm（イネ胚乳組織におけるプロテインボディタイプIの形成））

■論文博士

【農学研究科】

- ・ 奥村 剛一（Studies on development and evaluation of simple and rapid methods for inspection of microorganisms using immunological techniques（免疫学的な手法を利用した簡易・迅速な微生物検査法の開発と評価に関する研究））
- ・ 志知 幸治（バイカル湖地域における過去45万年間の植生変遷と気候変動に関する研究）

トピックス

京都外国語大学附属図書館との間で図書館の共同利用協定を締結しました。



本学附属図書館と京都外国語大学附属図書館は、両大学の学生・教職員が双方の図書館を相互に利用できるようにするため、共同利用の協定を締結し、2月17日に本学で調印式を挙行了しました。この協定により、4月1日から、双方の大学の学生・教職員は相手方の大学図書館から図書館利用証の発行を受けることができ、閲覧、貸出などその大学の学生・教職員とほとんど同等のサービスを受けられることとなります。また、図書館主催の展示会、講演会などのイベント情報や図書館報の交換を行います。

両大学の蔵書構成を見ると、本学附属図書館は総合大学図書館として、人文・社会・自然の各科学分野の資料を網羅しており、京都外国語大学附属図書館は単科大学図書館として、多くの言語に基づいた国際文化研究資料を収集していることが特徴です。お互いの蔵書を補完し合うことにより両大学の教育・研究の更なる発展に寄与できるものと考えており、学生・教職員の皆さんの積極的な利用を期待しています。

府大広報 No.160 一卒業特集号一 京都府立大学広報委員会 2009.3.24 発行

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5 TEL.075-703-5147 FAX.075-703-5149 Email kikaku@kpu.ac.jp